2026年8月28日(金) 山陽新聞 [全県版]

川崎医科大病院導入25年

ドクターヘリ出動1万回

倉敷で式典 救命に尽くす決意新た

川崎医科大付属病院（倉敷市松島）のドクターヘリが出動1万回に達し27日、同大（同所）で記念式典が開かれた。2001年4月に全国に先駆けて導入され25年余り。参加した病院や自治体関係者約90人が、急患の救命に尽くす決意を新たにした。

川崎学園の川崎誠治理事長が「事故なく運航され、多くの命が救われたことを誇りに思う。関係機関に感謝したい」とあいさつ。同病院高度救命救急センターの椎野泰和センター長が「引き続き岡山県の救急医療、地域医療に貢献していきたい」と述べた。

ヘリを運航するセントラルヘリコプターサービス（愛知県）と、導入に尽力した小濱啓次同大名誉教授に病院から感謝状も贈られた。

医師と看護師を救急現場に運ぶドクターヘリは、消防の要請を受けて出動。岡山県内全域と近隣県の一部エリアで、交通事故などによる多発外傷や心血管疾患、脳卒中の患者をいち早く治療、搬送する。7月8日に1万回となった。（後藤泉稀）

記念式典であいさつする川崎理事長